

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 2

団 体 名	小樽プライド委員会			
事 業 名	小樽 LGBTQ 映画祭			
実 施 期 間	令和6年2月24日			
事業の目的及び期待する効果	本事業の目的は、性的少数者に関する理解を深める映画を上映することで、小樽という街が多様性に開かれた魅力ある街であることをアピールすることにある。 その効果として、こうしたブランドイメージを構築することで、性的多様性に関する理解が進んでいる欧米地域や台湾をはじめとする海外の旅行客や小樽市内外の若者たち(当事者含む)に、より一層、小樽への魅力を感じてもらうことを期待している。			
実 施 額	事業費	257,147 円	助成額	253,225 円
事 業 内 容	1) LGBTQ をテーマとした映画を3本選定し、映画祭を開催する。今回、上映予定のタイトルとその概要・選定理由は以下の通りである。 <u>作品①『FLEE フリー』</u> 選定理由: アフガニスタン出身のゲイの難民のノンフィクションのアニメドキュメンタリーである。同性愛者であることが時には命の危機にも直結するという外国の境遇を知り、その知識を性的マイノリティである外国人観光客の接遇の際に活用してもらいたい。 <u>作品②『そばかす』</u> 選定理由: アロマンティック(他者に恋愛的に惹かれないという恋愛の指向をもつ人)、アセクシュアル(他者に性的に惹かれないという性的指向をもつ人)が主人公の物語である。まだまだ十分知られていないアロマンティック・アセクシュアルというセクシュアリティとその境遇を市民に知ってもらいたい。 <u>作品③『片袖の魚』</u> トランスジェンダー(生まれたときに割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人)の物語である。トランスジェンダー当事者がトランスジェンダー役を演じたという点で、映画史的にも画期的な作品である。トランスジェンダーの偏ったイメージが主に SNS を中心に拡散されている最近の状況において、トランスジェンダーのリアルを市民に知ってもらいたい。 2) チラシやポスターの配布 小樽市内のお店、小樽商科大学、後志管内の中学校・高校、道内のゲイバー、レズビアンバーなどにチラシを配布した(1,000 枚)。小樽市の関連施設、小樽商科大学、商店街等にポスターを設置した(30 枚)。 3) 映画祭の集客 FLEE フリー: 37 名、そばかす: 43 名、片袖の魚: 25 名、合計 105 名(来場者は 68 名)			

○事業の日程について

2 / 2

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
10/15～12/15	上映映画の選定、上映料金の交渉		
12/15～1/6	宣伝用チラシ・ポスターの作成		
1/11～2/23	小樽市内・後志管内・道内でチラシの配布、小樽市の関連施設、小樽商科大学、商店街等にポスターの設置		
2/24	映画祭当日、アンケートの回収	100 名	68名

○事業評価について

1. 事業の目的の達成度

チラシ・ポスターの配布や掲示の依頼を市内外で行うなかで、映画祭の趣旨や本会の取り組みを周知し、それによって小樽市が多様性に開かれた街であるという印象を市内外に一定程度広めることができたと思う。また、本会が運用するX(旧 Twitter)のアカウントで投稿した映画祭の広告ポストは、1月29日現在、リポスト(投稿内容を他のアカウントが再投稿すること)数50、インプレッション数(16,000)まで伸びており、小樽市が多様性に開かれた街であるという印象を市内外に一定程度広めることができたと思う。また、映画祭の参加者の中には、今回初めてLGBTQという言葉を知ったという人や学び・理解を深めることができたという人もいたことから、当初の目的は一定程度達成された。他方で、映画の解説が欲しかったという声もあり、上映後に専門家による解説を付すことでより一層の学びの深化を図るという工夫ができていればなお良かった。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

映画祭の参加者にアンケートを配布し、回答してもらうことで、満足度を評価した。来場者68名中、58名がアンケートに回答してくれた。反応は概ね肯定的であり、「色々と考えさせられて勉強になった」「映画のセレクションがよく、どの映画も見入ってしまった」「将来はマリノホールでできるくらいに関心が高まるといいです」「第二回を期待します」といったコメントが寄せられた。他方で、会場の狭さ、音響の悪さ、室内の明るさの問題点を指摘するコメントも散見され、映画の上映会場のクオリティの向上が今後の課題として残された。

3. 今後の事業について

2024年6月の最終日曜日に「第5回小樽プライド2024」を開催する。参加者のアンケートのなかには次回を期待する声も多く、上映して欲しいタイトル名も具体的に言及されていた。それらの作品を盛り込んだ来年度の映画祭の開催(秋以降)を積極的に検討したい。また、映画祭のみならず、音楽イベントの開催を期待する声もあった。また、セミナーの開催を期待する声もあった。